

## 昭和59年度重要貝類毒化対策事業

### (3) 東北・北海道沿岸海域における *D. fortii* の分布動態 (要約)

尾坂 康

重要貝類毒化対策事業の一環として、昨年度に引き続き東北・北海道沿岸海域における *D. fortii* の分布動態についてとりまとめた。なお、詳細については「昭和59年度重要貝類毒化対策事業報告書(東北・北海道における *D. fortii* の分布動態)」で報告済みである。

#### 調査方法

昭和59年4月～8月までの東北・北海道ブロック(重要貝類毒化対策事業のブロック区分)の各県・道で調査した沿岸域分布調査の結果を整理した。

#### 1 調査地点

図1に示した。(各地域の調査地点を○であらわした。)

#### 2 解析項目

- (1) 昭和59年度の *D. fortii* の分布動態
- (2) *D. fortii* の出現と環境条件について

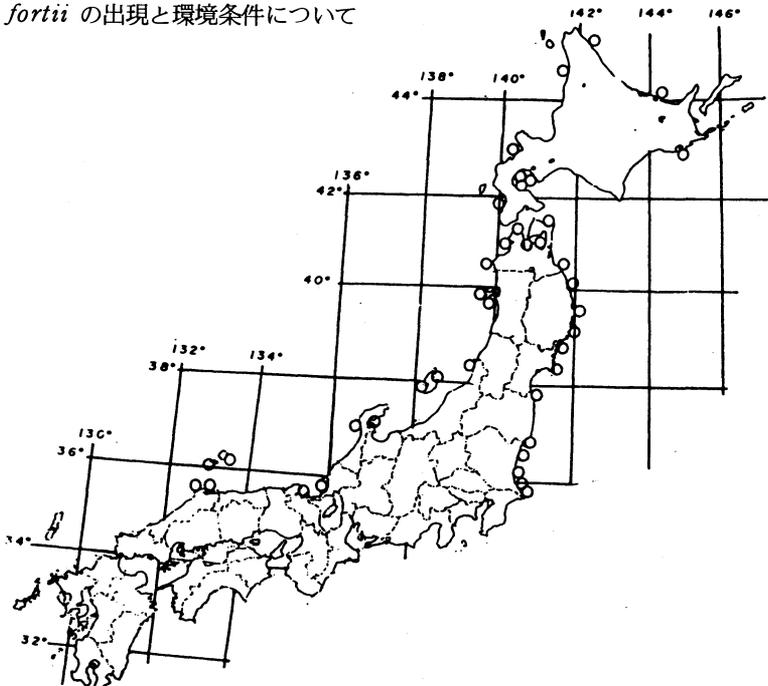


図1 調査海域および調査地点

- (3) *D. fortii* の出現水深層について
- (4) *D. fortii* の出現と指標プランクトンについて

## 結 果

図2に昭和59年度の東北・北海道沿岸海域における *D. fortii* の分布動態を示した。

- 本年は、4月の日本海側での *D. fortii* の出現量が少なく、また出現量のピークが昨年よりも1ヶ月遅れた原因として、低水温が長期間維持されたことが考えられた。
- *D. fortii* は、最初に日本海側から出現し、陸奥湾・三陸沿岸・太平洋東北南部へと推移し、昨年度と同様に対馬・津軽暖流水の流路と一致した。
- 日本海側では、7月以降になると急激に減少し、8月には全くみられなかった。この原因として、水温20℃以上になると生存に不相当と考えられ、したがってこの時期の対馬暖流水からは、*D. fortii* は供給されないと考えられた。
- 陸奥湾・噴火湾・三陸沿岸・太平洋東北南部では、8月になっても濃密な出現がみられた。
- 本年の海況の特徴は、春先に低水温が長期的に維持され、更にこの時期対馬暖流水の流量が弱かった。逆に太平洋側の親潮系水の勢力が強かったために、津軽海峡の東口、太平洋側に親潮系水の接岸が認められ、津軽暖流水は、このため5月中旬まで津軽海峡の東口を塞がれたような水塊配置を形成した。  
そのため *D. fortii* の分布は、春先から5月中旬まで日本海の本州北部や陸奥湾で濃密に出現し、太平洋沿岸での出現が遅れることになった。
- T.Sダイアグラム上にプロットした各沿岸海域の *D. fortii* の分布は、各海域とも水温8～18℃で濃密に出現する傾向があった。塩分では、日本海側では、30.0～34.1%と広範囲に出現し、その他の海域では33.0%の付近で濃密に出現する傾向があった。
- 水温・塩分からみた各海域に出現する *D. fortii* の分布には、それぞれの海域の特性が反映していた。
- *D. fortii* の分裂細胞が頻繁がみられたときの水温は8～11℃の範囲にあった。
- *D. fortii* の出現水深層は、一般に表層から底層まで広く分布するものの、1,000cells/ℓ以上の濃密な出現水深層は、各海域によってそれぞれ異なるものの10～30m層に多く出現する傾向があった。
- *D. fortii* が出現する前後の指標プランクトンを利用することにより、*D. fortii* の出現状況がある程度予測することが可能と考えられた。

---

昨年度に引き続き、東北・北海道沿岸海域における *D. fortii* の分布動態のとりまとめ県として昭和59年度の各研究機関の結果を整理したものである。詳細については、昭和60年3月：昭和59年度重要貝類毒化対策事業報告書（東北・北海道沿岸海域における *D. fortii* の分布動態、昭和60年3月：東北・北海道ブロック、広域分布調査）を参照。

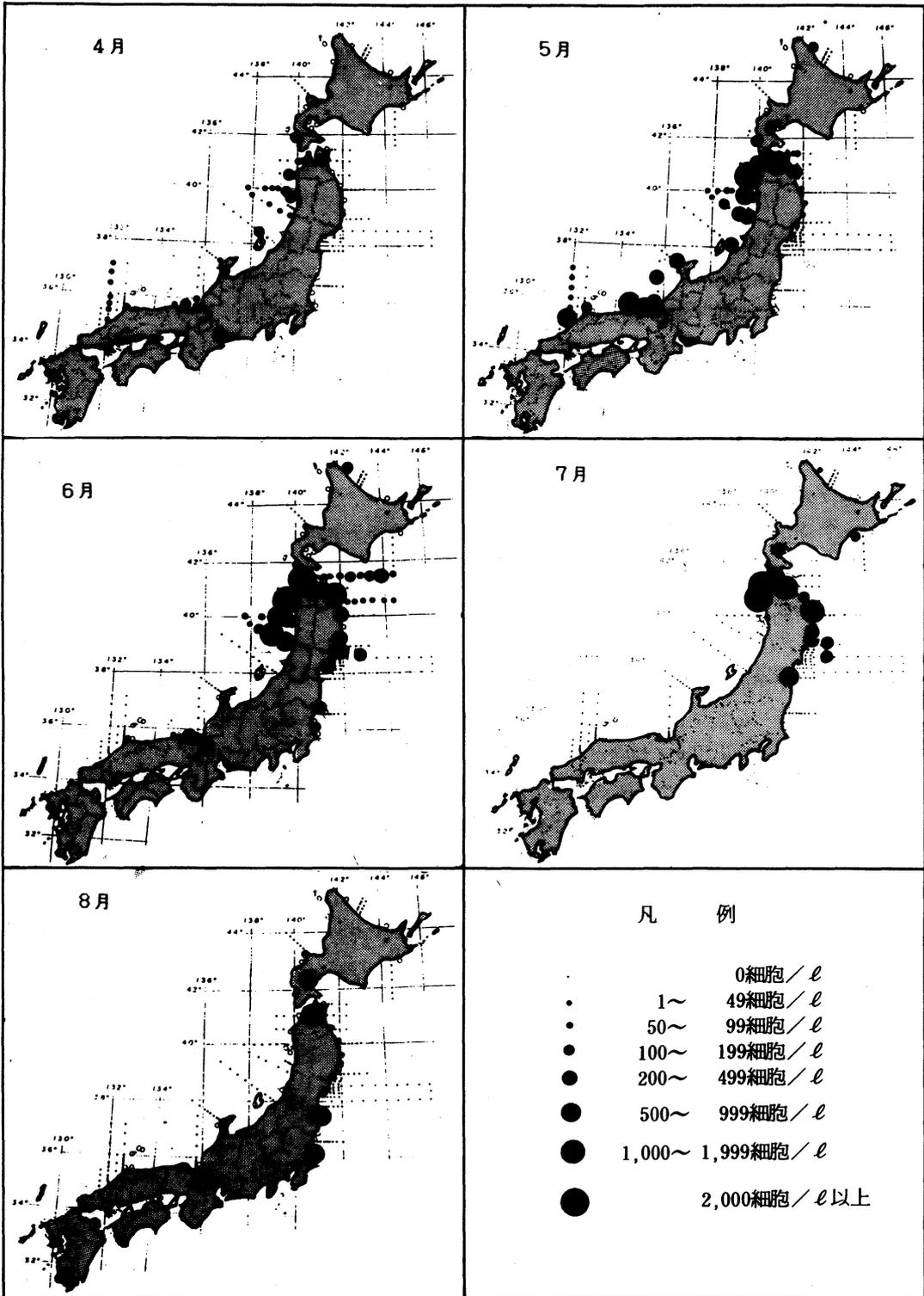


図2 昭和59年度の日本海および東北・北海道海域の *D. fortii* の分布動態  
(昭和59年4月~9月)